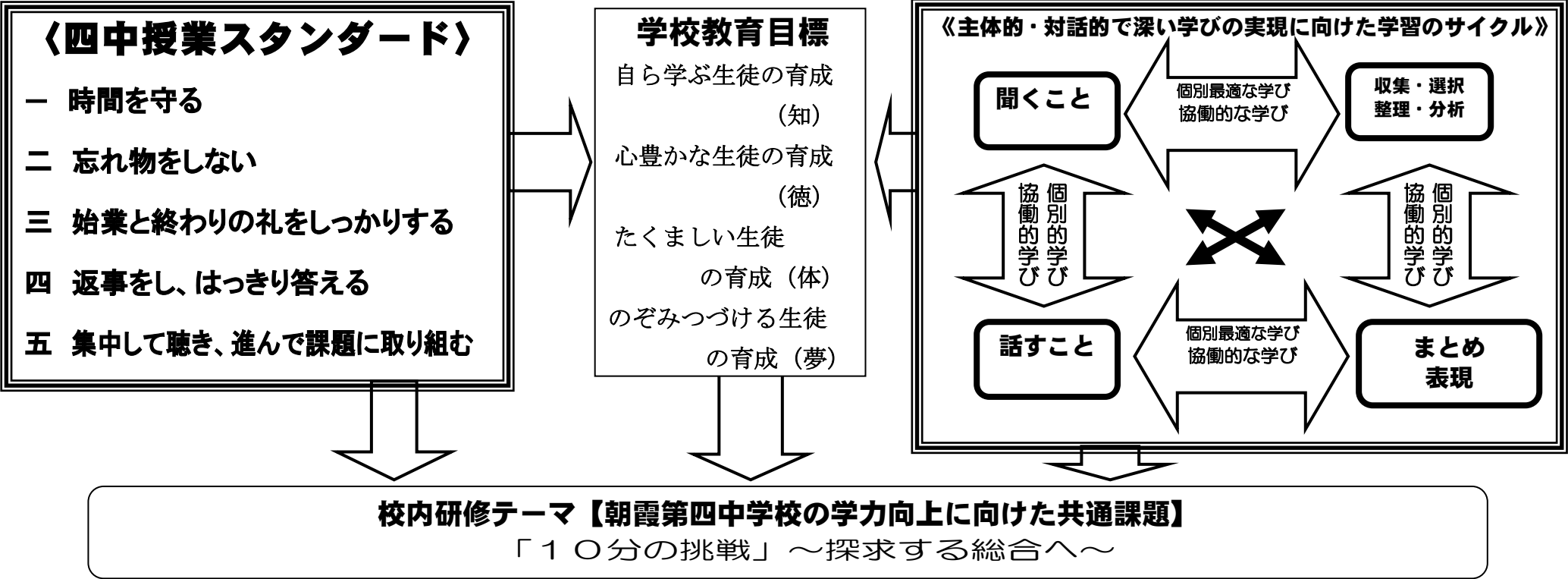


令和7年度 朝霞第四中学校学力向上プラン



国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
「目指すべき生徒像」 ・伝えたい事実や事柄について、根拠を明確にして書くことができる生徒	「目指すべき生徒像」 ・基礎・基本を身に付け、表現活動を通して多面的・多角的に考察することができる生徒	「目指すべき生徒像」 ・粘り強く考え、自分の意見を簡潔・明瞭・的確に表現できる生徒	「目指すべき生徒像」 ・仮説を立て、実験・観察の結果から考察して、自分の意見を発表できる生徒	「目指すべき生徒像」 ・自分の思いや考えを表現できる生徒
〈伸ばしたい力〉 ●説得力のある表現を工夫する能力 ●豊かな語彙力を身に付け、適切に言葉を使う能力	〈伸ばしたい力〉 ●事象間の関連を説明する能力 ●必要な情報を踏まえて自分の考えを論述する能力	〈伸ばしたい力〉 ●数式、表、図、グラフなどを用いて具体的な事象を捉え、説明し、伝え合う能力	〈伸ばしたい力〉 ●考察、分析した内容から結論を出し、文章に表現し、説明できる能力	〈伸ばしたい力〉 ●伝えたい内容を英語で正しく書いたり、話（発表）したりする能力 ●生徒間で相互的に聴く能力
《指導の工夫》 ○対話型の学習を通して、説得力のある表現力と、相手の意図を正しく捉える力を育成する。 ○豊かな表現に触れる機会を増やし、語彙力を身に付けさせる。	《指導の工夫》 ○資料から必要な情報を集めて読み取らせる。 ○自分の考えを論述させる発問を工夫するとともに話し合い活動の機会を増やす。	《指導の工夫》 ○自分の意見をまとめる時間を設ける。 ○発言させる機会を増やす。 ○グループ活動の工夫をする。	《指導の工夫》 ○仮説・実験・考察・発表・まとめを授業スタイルとし、定着させる。	《指導の工夫》 ○言語材料に応じて学習形態を適宜変えながら行う。（全体・グループ・ペア・個人） ○”input”と”output”を様々な方法で繰り返し行うことで表現力の定着を図る。
【成果・課題】（A B C）	【成果・課題】（A B C）	【成果・課題】（A B C）	【成果・課題】（A B C）	【成果・課題】（A B C）
音 楽	美 術	保健体育	技術・家庭	学力向上プラン 活用の流れ 1 校内研修で、諸調査の結果をもとに、教科ごとに学力向上プランの見直しをする。調査を実施していない教科は、生徒の実態を踏まえながら見直しをする。 ※見直す部分 ①目指すべき生徒像 ②育てたい力 ③指導の工夫 2 年度末の校内研修で指導の評価をして、反省をする。 必要に応じて、①目指すべき生徒像、②育てたい力、③指導の工夫を修正する。 3 次年度は、前年度末に反省し、検討した学力向上プランを軸に教育活動始める。
「目指すべき生徒像」 ・自ら考え、行動し、豊かな情操を育み、自分の思いや考えを表現することができる生徒	「目指すべき生徒像」 ・感じたこと、考えたことを、様々な材料や用具を生かして表現することを楽しむ生徒 ・自分や他者の作品の見方や感じ方を広げ、豊かに鑑賞する生徒	「目指すべき生徒像」 ・思考、判断、表現することで自らの課題を明確にし、課題に合った練習方法を計画する生徒 ・仲間と協力して解決することで技能・体力の向上を目指す生徒	「目指すべき生徒像」 ・実習を通して、課題を見いだして、それに向かい協力できる生徒	
〈伸ばしたい力〉 ●歌詞を理解したり、曲を理解したりして、自分たちの音楽を作り上げ、互いの表現を認め合う能力	〈伸ばしたい力〉 ●自分の考えや感じたことを絵画や彫塑・デザイン、工芸などの技術を生かして形にする能力	〈伸ばしたい力〉 ●仲間とのコミュニケーションを図り、お互いの良さを認め合い、粘り強く課題解決へと向かう能力	〈伸ばしたい力〉 ●実習を通して、自ら課題見を発見し、班員で協力し、解決する能力	
《指導の工夫》 ○音楽の世界観や感受性を広げさせるために、音楽の感じ方の違いを話し合う活動を増やす。	《指導の工夫》 ○主題を大切にし、他者の意見や制作過程の評価を生かしながら考えを深め、主体的に表現する力を育てる。	《指導の工夫》 ○体力向上のための導入の工夫や、話し合い活動を推進し、学習カードの記入により表現力を定着させる。	《指導の工夫》 ○実験・実習等の体験をまとめ、感想や記録を書き、発表し合う授業スタイルを定着させる。	
【成果・課題】（A B C）	【成果・課題】（A B C）	【成果・課題】（A B C）	【成果・課題】（A B C）	